

下野市 女性の活躍に関する事業所ヒアリング調査結果

1. ヒアリング調査実施の趣旨

下野市では現在、第二次下野市男女共同参画プランに基づき、お互いを理解し尊重する、心豊かな社会の実現を目指し、男女共同参画推進のための施策を進めています。また、第二次下野市男女共同参画プランの計画期間が令和2年度で終了することから、新たなプラン策定に向けて取り組んでいます。

本調査は、市内事業所で働く女性に直接お話をうかがうことで、女性が活躍できる職場環境を整備するにあたって求められる制度等の状況について把握し、第三次下野市男女共同参画プラン策定の参考データとして活用するために実施しました。

2. 実施概要

ヒアリング調査については、4日間にわたり、市内の3つの事業所に勤務する女性を対象に実施しました。日時と対象事業所は以下のとおりです。

- | | |
|----------|---------------------------|
| 1 社会福祉法人 | 11月28日(木) 13:00~14:30【3名】 |
| 2 認定こども園 | 12月3日(火) 13:30~14:00【3名】 |
| | 12月4日(水) 16:00~16:30【3名】 |
| 3 製造業 | 12月5日(木) 13:30~14:00【4名】 |

3. ヒアリング調査結果

いただいたご意見の概要を、カテゴリ一別に掲載します。

○勤務先における、仕事と家庭の両立や、女性が職場で活躍するための制度の利用状況

<子育て支援>

- ◇ 現在・過去共に利用経験はない。これまでは家族の協力、自身の努力でやってきている。子どもが小さかったころは幼稚園を利用していた。周囲の若いママさんは0歳から保育園に預けている様子が見受けられる。
- ◇ 産休・育休・傷病休暇を取得した。事業所内では産休・育休を取得した例がなかったため、会社も自分も手探りでの取得だった。育休からの復帰時は週2回の勤務からスタートしたが、時短勤務ではなかった。会社内の制度については、上司（女性）から該当者に対し斡旋される環境にある。
- ◇ 時短勤務を利用している。勤務先の幼稚園に通っている子どもと共に登園し、一緒に帰宅できる勤務時間となっている。子どもと一緒に通うことができるのがメリットであり、このような勤務状況の人は多い。
- ◇ 時短勤務は制度としてあるわけではないが、個別の場合に合わせて対応している。
- ◇ 時短勤務は現在一人いる。出産後復帰し、正社員としてフルタイム勤務だった方もおり、個人の状況に合わせている。
- ◇ 幼稚園教員は産休・育休を取る方はそこまで多くない。出産後退職し、子どもが大きくなってから戻ってくるパターンが多い。入園しているお子さんの親で元幼稚園教員の方（別の園に勤めていた場合もある）に声をかけることで、再就職に繋がったこともある。
- ◇ 元々別の園に務めていたが、退職した。妊娠・出産後に子どもが幼稚園に入園し、そのうち自らもその幼稚園に再就職した。
- ◇ 制度ではないが、子どもがいる方が職場に多いため、病気の際など理解を得やすく、早退や休みを取りやすい環境でありがたい。以前別の職場で働いていた際はパート勤務だったため、休みは勤務時間を調整していた。
- ◇ 現在は子どもが大きいのので、制度は利用していない。また、子どもが小さいころも利用していなかった。サービスがあまり使われていない時代だったので、どういう制度があるかも知らなかった。パートなど、短い時間で働いて対応していた。

○仕事と家庭の両立のための市の公的サービスの利用状況

<子育て支援>

- ◇ 病児保育（市内幼稚園で実施）を利用している。利用している人は多い。子どもがその幼稚園に通っていない場合でも、病児保育だけ利用している人もいる。通い慣れている園で病児保育を受けられるのは、子ども・親双方にとって良い。自分が働いている園なので、子どもの状況を知らせてくれるところが安心。
- ◇ 市の保育園を利用している。
- ◇ 学童保育は長期休みや学校の臨時休業の時も預けられる。現在フルタイム勤務で、宿題・おやつなど面倒を見てもらえて助かる。
- ◇ 育児ママ・パパリフレッシュ利用券は配布されたが、仕事にすぐに仕事に復帰したので、利用しなかった。
- ◇ 育児ママ・パパリフレッシュ利用券がもう少し前からあれば、子どもが小さいときに使いたかった。
- ◇ 育児ママ・パパリフレッシュ利用券の対象施設は人数制限があり、予約できなかったため使い切れなかった。妊娠時は別の市町村にいたが、そこではいろいろなサービスがあった。
- ◇ 今は高校生までこども医療費助成制度が使えるが、自分の子育て当時は違ったため、なるべく病院には連れていかないようにしていた。

<介護支援>

- ◇ 親の介護でデイサービスと訪問介護、在宅介護を利用している。介護サービスについて、どこの施設を利用するか迷う。現在はケアマネージャーのアドバイスに従っている。情報をもっと分かりやすいようにしてほしい。分からないことがあったとき都度聞いているが、情報が一括して得られるような状況だとありがたい。介護が初めてだと分かりづらい。

<市のサービスについて>

- ◇ 公的サービスについては、病院の案内やポスター等で知った。実際の取得に際しては、病院で申請書類を揃えてもらったため、比較的スムーズに手続きができた。
- ◇ 制度を利用したくても情報が入ってこない。育児・出産に関する制度は、産婦人科で情報提供があれば知るチャンスはあるが、普段は忙しくて聞けない。
- ◇ 保育の情報について、後から知った制度があった。保育園は保育の内容で選んだりせず、家から近い園を選んだ。
- ◇ 仕事をしていると、他のママとの交流も少なく、情報を得る機会は少ない。専業主婦も情報を得る機会は少ない。
- ◇ 保育施設は母と姉に送迎を頼んでいたため、親同士の交流や情報交換はなかった。
- ◇ 制度があっても家族の援助でどうにかしようとしている人も多い。

○今後機会があれば利用したい勤務先の制度または公的サービスについて

<子育て支援>

- ◇ 病児・病後児保育は気になるが、どうやって使うのか分からない。現在は祖父母と同居しており、(祖父母も仕事をしているため)交互に休むなどして対応している。周囲には制度を使っている人もいない。
- ◇ 病児保育を育児ママ・パパリフレッシュ利用券のようにチケット制にしてみてもどうか。お金がかかるため、特にひとり親や所得が低い方などに対して支援があれば良いのではないか。
- ◇ 病児・病後児保育は知っているが利用したことはない。病気の際は自分や家族(同居の祖父母等)が休んで対応しており、現状通常の保育園で満足はしている。
- ◇ 自身は結婚、出産は経験していないため、会社の人や友人が取得しているのを見ているのみ。制度自体が必要な状況ではないため調べたことはない。
- ◇ サービス業の方など、土日祝に預かってもらえる場があれば良いと思う。一方、子どもを預かるサービスの提供側としては、ずっと預けて働くことができる環境は、子どもにとって良いことなのか分からないと感じる。
- ◇ 今後子どもが大きくなったら放課後児童クラブ(学童保育)は利用したい。

<介護支援>

- ◇ 今後必要になった場合は、介護サービス(訪問系サービス)を利用したいと考えている。義父は外に出たがらない性格のため、義母の息抜きも含め、通所系サービスを利用するなど、必要になったら本人に合うサービスを考えて利用したい。また、病院での対処が必要になるまでは、在宅介護を考えている。介護が必要になっても、仕事はできるだけ続けたい。正規職員からパートになるなども検討する。
- ◇ 介護の観点からも短時間勤務制度の導入があってもよい。しかし、個人の状況によるため、現在正規職員での短時間勤務制度の利用者はあまりいない。
- ◇ 義父が施設に入った。自分の親の介護が必要になった時に、介護施設やデイサービスを利用したい。
- ◇ 父が高齢になったら介護サービスを利用したい。母は骨折して車いす、祖母は認知症の状況なので、現在は市の介護サービスを利用している。市のサービスがないと家族が疲れてしまう。

○仕事と家庭の両立や、女性が職場で活躍するために求める制度やサービスについて

<子育て支援>

- ◇ 真岡市には乳児紙おむつ購入助成券（市内でオムツを買う際の補助として使用できる）がある。
- ◇ 子の看護休暇は小学校6年生までに延ばしてほしい。
- ◇ 正規職員だと帰る時間が遅くなってしまうので、遅くまで保育ができる場所、朝早くから預かってもらえる場所があると良いと思う。迎えが6時までなので、祖父母がいる方は頼ってしまう。延長保育にならない時間で迎えに来てもらっている。
- ◇ 幼稚園に入れて預かり保育を使う人は増えている。働く母親には良いサービスである一方、子どもの立場になって考えると、子どもの負担にならない範囲で無理なく働ける職場環境が整うとよい。（具体的には難しいが、時短、働く場で預かってもらえるなど）
- ◇ 男性も子どものために育休が取れる環境、病気のとくに迎えに来られる状況になると良い。
- ◇ 働くうえで、家族の協力が必要なので、男性も子育てに参加しやすい環境づくりが必要（市や会社の男性の育休取得推進など）。社内で育休を取っている男性は見かけない。
- ◇ 子どもが小さいときは手がかかり、なかなか離れられなかったため、会社に託児所などがあると良いと思った。

<介護支援について>

- ◇ 介護が必要になってから施設入所までに時間がかかり、待機になってしまうと大変。
- ◇ 入所にあたってのハードルが高い。弟夫婦と同居していた実の母は1年半入所できず、ショートステイでつなぎ特別養護老人ホームに入所した。同居している弟夫婦の子どもが就学前だったため、育児と介護の両立に苦労し、結局は子どもを優先したような結果となった。弟夫婦は農業を営んでおり、自分としても土日だけ行って手助けするのが限界だった。また、施設利用料が高い。せめて年金で対応できる程度の値段だと良い。特別養護老人ホームでも費用は高く感じた。
- ◇ 介護は何年かかるか分からないため、介護者への理解が広まると良い。また、人によって介護の程度が違う。介護は経験してみないと分からないこともある。家族にしか見せない面もあり、人前では普通に見えても実際は重度な状況である可能性もある。
- ◇ 施設入所後の日常の様子が家族に分かると良い。せめて訪問した際にはお話しができるが良いが、母の訪問に行った時も職員の方が忙しく、普段の様子などを話していただくことが難しかった。

<職場の休暇制度など>

- ◇ フレックスタイム制度。
- ◇ 子ども休暇、看護休暇、生理休暇等の休暇制度。
- ◇ リフレッシュ休暇や誕生日休暇、長期休暇等の制度が欲しい。勤続年数によって家族で旅行に行ける日等。そのくらいの制度がないと、休みづらさを感じる。また、市の記念日など公的な休日があると休みやすい。

○現在のワーク・ライフ・バランスの満足度について

- ◇ まあまあ満足。人手不足がなければさらに満足。
- ◇ 仕事・家事・育児の両立については不満なし。職場では協力をしてもらえたり、家族がいることに対する配慮してもらえたりする。また、半年に一度面談があり、仕事の不満等を伝えることができる環境にある。働きやすさを感じる。
- ◇ 現在はとくに問題ない。
- ◇ どうしても子どもの関係で休みが多くなってしまふのは後ろめたい気持ちがある。
- ◇ 以前は幼稚園に送ってから通勤していたので、幼稚園勤務になり子どもと一緒に通える分、別の職場で働いていた時よりは余裕が持てている。
- ◇ 満足度 100%といえる。両立がうまくいっている。
- ◇ 家族のサポートがあるので両立できている。
- ◇ 今は自宅で介護する人がいないので困っていることはない。

○その他

<働き手の問題>

- ◇ 働く中で人手不足を感じる。
- ◇ 幼稚園に新卒で勤める人が少なくなっている。人手は足りていない。
- ◇ 子育てしながら仕事がしやすくなるのではないかと。人手が増えれば解決することも多い。
- ◇ 人手は足りていないが、技術職なので人材育成に時間がかかる。休みを取りやすくするためには単純に人を増やすだけでなく、様々な技術を身に付けてもらえるような教育が必要。
- ◇ パートを増やすだけでなく正職員が増えると、もう少し余裕をもって仕事ができる。

<休暇取得に関して>

- ◇ 休んでも良いという雰囲気はあるが、実際有給休暇は取りにくい。ほかに休みの人がいないか確認するなど気を使ってしまう。
- ◇ 有給休暇は取りづらい。仕事の量など他の人と休みが被らないように早めの調整が必要。
- ◇ 現在育休・産休を取っている人は複数いる。

<幼稚園の現場で>

- ◇ 日曜日の保育ニーズは現在ない。土曜日は1人の利用がある。0、1歳などの低年齢児の利用が多い。土日も保育するのは、子どもにとっては良い環境ではないのではないかと感じる。土日預かった分平日に休んで、親との時間を持てる子もいる。
- ◇ 幼稚園での土日のイベントは以前より減っている。平日の行事でも保護者の参加は多く、保護者の休みは取れやすくなっているのではないかと。
- ◇ 園児の中でも祖父母や親せきの送り迎えは多い。祖父母と同居している例も多いようだ。
- ◇ 親が仕事中でも、お迎えは祖父母に行ってもらうことで、実家で子どもが待ってられる。延長保育代金もかからないので助かるという面もある。
- ◇ 無償化の影響もあるのか、預かり保育も増えてきている印象はある。先生方の休憩時間が短くなってしまわないかという懸念もある。

<キャリアや今後の展望>

- ◇ 自分は3つ目の職場。他業種を経験することは視野が広がり良いことだと感じる。子育て中はパートで、その後正職員となった。
- ◇ 今後のキャリアプランはない。管理職という概念や、ジョブローテーションなどは基本的にはない。人が移動しないと変わらない。
- ◇ 自分は実家暮らしで家も近いため、仮に結婚・出産となっても働き続けられると考えている。
- ◇ 自分は介護職(場所に関わらずできる仕事)につきたいと考えていたため、実家の近くで就職できたが、そもそも都心に行かないとできない仕事もある。都心に向かって出ていく人も多い。

【調査結果のまとめ】

- ・子育て支援に関わる勤務先の制度や行政サービスを利用して家庭と仕事を両立させている方がいる一方、制度やサービスを利用せずに家族や職場の協力のもと両立させている方もいらっしやった。
- ・祖父母や親せきと同居・近居の状態にある方が多くいらっしやった。
- ・職場においても時間の融通が利く、子育て中であることに配慮してもらえる状況にあるなど、働きやすい環境であるという声もあった。

⇒ヒアリングにご協力いただいた方々は、家族や職場の協力を得られるなど比較的両立しやすい環境にある方が多かった。そのため、ワーク・ライフ・バランスに満足できる状況で働くことができているという回答が得られた。

- ・普段忙しい中で公的サービスを利用するための情報を得ることは難しいという意見があった。
- ・保育園や幼稚園の迎えに祖父母が行くことが多く、働いていると他の保護者と会う機会が少ないという声が多かった。
- ・病児・病後児保育については、実施している幼稚園に通園しているなど身近に情報がある方は利用できているが、利用方法が分からないという声も多かった。
- ・介護支援についても情報が一括して得られるようになると良いという意見があった。

⇒市の公的サービスについて、情報が一元的に得られる仕組み・周知の充実等が必要とされている。情報提供方法を改善し、サービス利用のハードルを下げる工夫が求められている。

- ・子育て中の社員に配慮や理解がある職場環境においても、休暇を取るための調整が大変だと感じている人が多かった。
- ・子育て中は幼稚園、保育園、学校の行事が多いことなどもあり、休暇が取りやすいと助かるという意見があった。

⇒事業所の制度や社内の配慮はあるものの、休みづらさを感じている様子が見受けられた。余裕をもって働くことのできる環境を整えることで、育児・介護・家事がより両立しやすくなる。

- ・子育て中の方、介護をしている方への理解を求める声が上がっている。
- ・女性が働くうえで家族の協力が必要であるため、男性も子どものために育休を取ったり病気のときに迎えに行ったりできる環境づくりが必要だという意見があった。

⇒事業所内で子育てや介護をしている方への理解を深め、男性が育児・家事に関わりやすい職場環境にしていくことで、男性も女性も希望するワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを進めていくことが重要である。